

平成 24 年 3 月 6 日
大臣官房公共事業調査室
総合政策局技術政策課

日インドネシア海事・海保・港湾合同セミナーの開催について(結果報告)

平成24年2月29日(水)、インドネシア・ジャカルタにおいて「日インドネシア海事・海保・港湾合同セミナー」を海事・航行安全・港湾の三分野にて合同開催した。

本セミナーは、制度・基準等の「ソフトインフラ」に係る個別技術をパッケージ化し、総合力を活かして我が国の優れた技術体系を海外展開するため、連携した取り組みが効果的と考えられる海事・航行安全・港湾分野の技術を紹介するものであり、インドネシアとのこれら三分野での協力関係の強化に寄与するとともに日本企業の海外受注機会の増大につながることを期待している。

1. セミナー及び会談概要

日時 : 平成 24 年 2 月 29 日 (水)
開催地 : インドネシア・ジャカルタ
出席者 : [日本側] 北村国土交通審議官、林田技術総括審議官 他
[インドネシア側] バンバン運輸省副大臣、レオン運輸省海運総局長 他

2. セミナー

- (1) 日本側から内航船に関する安全・環境対策の紹介、日本の先進的な造船技術の紹介、船舶航行安全管理技術及び港湾建設技術をはじめとする港湾開発への協力について紹介した。
- (2) インドネシア側からは新港開発プロジェクト及び INAPORTNET (港湾 EDI システム) についてプレゼンテーションが行われた。
- (3) 海事・航行安全・港湾の三分野をトータルに扱う本セミナーを通して、日本の基準・技術及びインドネシア港湾の現状に関する理解が深まった。

※ EDI : Electronic Data Interchange

3. 会談

セミナーに先立ち、インドネシア運輸省副大臣との会談を行った。内容は以下のとおり。

- (1) 日本側より、タンジュンプリオク港の拡張及びチラマヤ新港開発の重要性とそれらに対する更なる協力の意思、内航海運振興プロジェクトへの早期実施への期待、海上保安能力向上に向けた人材派遣協力の継続について述べるとともに、次回の ITF (国際交通大臣会合) について出席を促した。
- (2) インドネシア側より、日本の協力に対する感謝が述べられるとともに、タンジュンプリオク港の拡張及びチラマヤ新港開発については環境に配慮しつつ進めていきたいとの考え及び日本のバックアップに期待している旨が述べられた。また、内航海運振興については新造船建造、中古船購入及び造船所拡充への期待が述べられた。加えて、マラッカ海峡の安全確保のため、VTS (Vessel Traffic Service) の整備やその運用のための人材育成等の更なる協力への期待が述べられた。

今回のセミナーをきっかけとして、今後は海事・航行安全・港湾分野の相互技術の連携により「ソフトインフラ」の展開を進めるとともに、インドネシアを始めとするアジア諸国に係る技術連携プログラムを作成し、効果的にプロジェクトを推進していく予定である。

セミナー議題等については、次頁の通り。

■日インドネシア海事・海保・港湾合同セミナー

1. 日時:平成 24 年 2 月 29 日(水)

2. 場所:プルマンジャカルタホテル

3. 議題:

- (1) 内航船の安全・環境対策
- (2) 日本の先進的造船技術と国際連携に向けたイニシアティブ
- (3) 日本造船業のインドネシアの海事産業発展に向けた協力
- (4) 船舶航行安全管理技術
- (5) インドネシア港湾の開発と運営に関する日本のソリューション
- (6) 日本の港湾建設技術
- (7) 港湾分野における JBIC の協力
- (8) インドネシア港湾開発のための ODA 資金スキーム
- (9) 新港開発プロジェクト(チラマ新港)
- (10) INAPORTNET(EDI システム)

海事局安全・環境政策課

日本船舶技術研究協会

日本造船工業会

海上保安庁交通部整備課

港湾局国際・環境課国際企画室

日本埋立浚渫協会

国際協力銀行

国際協力機構

インドネシア運輸省

インドネシア運輸省



日インドネシア海事・海保・港湾合同セミナー



バンバン運輸省副大臣・北村国土交通審議官 会談

【問い合わせ先】

大臣官房公共事業調査室 坂、長谷川

TEL:03-5253-8258(直通)

総合政策局技術政策課 池田

TEL:03-5253-8950(直通)